

Haizuka EarthWorks Projects Guide book

灰塚アースワークプロジェクト
ガイドブック

ハイツカ湖地域ビジョン 第1・4分科会

(お問合せ)
ハイツカ湖地域ビジョン事務局
(灰塚ダム管理支所内)

〒729-4302 広島県三次市三良坂町仁賀1575
TEL(0824)44-4360 FAX(0824)44-3544

Haizuka EarthWorks Projects



Guidebook

灰塚アースワークプロジェクト
ガイドブック

MIRASAKA
KISA
SORYO

Prologue プロローグ

1994年から9年間にわたり展開された「灰塚アースワークプロジェクト」それは灰塚ダム建設によってもたらされる環境変化のなかで、新しい地域文化を創造しようと試みた活動でした。

目指したのは自然と文化が調和した、永続的な魅力を持つ「環境美術圏」。環境や景観に配慮した開発にとどまることなく、地元住民と美術家や建築家などの多彩な専門家が共に考え、関係行政機関と繋がりながら自然や芸術と交流し、新たなコミュニティの創成を図ってきたのです。大自然と同様に、アースワークもきっと時間をかけて成長していくもの。今も残る作品群と共に過ごした記憶の中に、未来への更なるヒントが隠されているのかもしれません。



Work List 作品一覧

番号	作品名	設計	受賞歴
01	共通親柱 みんなのこしかけ	福井裕司	
02	灰塚大橋	吉松秀樹+アーキプロ	
03	羽地大橋	岡崎乾二郎+エンガワ	
04	展望スペース「うさぎの耳」ほか	岡崎乾二郎+エンガワ	
05	灰塚ダム記念公園		
06	灰塚ダム・堤体		
07	ガードレール(灰塚ダム防護柵)		第5回グッドペインティングカラー`02 特別賞(日)
08	なかつくに公園(アースワーク公園)	岡崎乾二郎+エンガワ	
09	無縁墓地	吉松秀樹+アーキプロ	日本建築学会建築選集2000 入選(日) 2002年度 第18回公共の色彩賞 -環境色彩10選-(日) 2003 ar+d賞 大賞(英) 2003/2004 デダロ・ミノス国際建築賞(伊)
10	知和大橋	福井裕司	
11	倉谷トンネル	抗口デザイン：岡崎乾二郎+エンガワ	
12	日回り舞台(ひまわり舞台)	岡崎乾二郎+エンガワ	
13	木屋癒香の杜	堀正人	
14	ハイヅカ湖畔の森コテージ・レストハウス	トム・ヘネガン	SDレビュー1995 SD賞(日)
15	陶芸学習舎	吉松秀樹+アーキプロ	アメリカンウッドデザイン2002 最優秀賞(米) 日本建築学会建築選集2003 入選(日)
16	D-POINTプレート(展望台内)	PHスタジオ	
17	アースワークセンター	吉松秀樹+アーキプロ	カナダグリーンデザイン賞 最優秀賞(加) アメリカンウッドデザイン2002 優秀賞(米) Architecture+Awards 2004 Finalist (UAE)

アースワーク宣言

地域の環境に配慮しながらアースワークプロジェクトを活かしたダムづくりとして、次の4点を基本的方針とします。

里の環境・文化に調和させる

里の暮らしの一部となっていた森、小川、田んぼなどの身近な自然やこれらが作り出す風景、暮らしの中で育まれてきた生活文化、伝統など、灰塚ダム周辺エリアで形づくられてきた地域ならではの環境や文化を大切にしながら、これらと調和のとれたダムづくりを進めていきます。

地域と共に創る

地域の皆さんに灰塚ダムの取り組みについて知っていただきながら、地域の声を集めつつ、ダムづくりに活かしていきます。また、ダムづくりへのご理解とご協力のもとに、地域の皆さんの参加を得、地域と一緒にダムづくりに取り組んでいきます。

将来に伝え残す

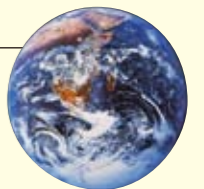
50年後、100年後の将来にわたり人々から愛され、親しまれ続けるよう、将来に目を向けたダムづくりに取り組んでいきます。また、ダムづくりを通して、将来に受け継がれる新たな環境や芸術・文化の育成などを目指していきます。

地域に貢献する

「里の環境・文化に調和させる」「地域と共に創る」「将来に伝え残す」の3点の基本方針に取り組むことで、新しい地域共有の財産となりうるようなダム周辺環境の形成を目指し、ダム事業を契機に、都市住民との交流など、新たな地域づくりの展開につなげ、様々な面から地域に貢献できるダムづくりに取り組みます。また、アースワークプロジェクトを通じて世界中の人々にも訪れてもらえるような交流の場となるように努めます。

地域に暮らす人々やここを訪れる人々が、川や湖の水と山野の緑とここで生まれた芸術を、身近で、飽きずに、長く楽しめるダム環境の実現を目指した

アースワークの杜づくり



アースワークプロジェクトの概要

アースワークスクール

様々な分野のアーティストや専門家が現代美術や芸術活動に関する授業を行いました。吉舎町・総領町・三良坂町の小中学校や老人大学での講義や演習、出前授業など、ユニークかつバラエティに富んだスタイルで、地域と芸術活動との接点を広げる教育普及活動でした。



写真：吉松秀樹氏

アーティスト・イン・レジデンス

国内外から4名のアーティストを招待し、1ヶ月間以上現地に滞在して作品を制作してもらったプロジェクトです。美術や建築、写真、ビデオの4分野から選ばれたアーティストと地元住民の間で交流を深めたり、アーティスト同士で刺激し合うなど、地域性を越えた表現活動を展開してもらうことを目標にしました。制作された作品は黒目スタジオで展示発表されました。



写真：伊達浩史氏

街中を美術館に(作品ホームステイ)

若いアーティストや美大生が制作した絵や彫刻などの作品を、地元住民の希望者に貸し出しました。これらの作品を誰にどのような形で見せるかは作品を受け入れたホストファミリーの自由。美術作品は美術館で見るだけでなく、作品と見る人の一对一の付き合いもできるとともに、生活空間に作品がある日常について気づかされるといった、美術作品と付き合い方を探るプロジェクトでした。



写真：伊達浩史氏

サマーキャンプ

夏の1週間から10日程度、参加者全員が毎日寝食を共にしながら、多彩な講師によるゼミ形式の講義やバスツアー、自然を使った制作活動などを行いました。若い学生等に教育的なプログラムを展開しながら、アースワークの普及や交流者・支援者を広く確保することができました。



写真：吉松秀樹氏

ワークショップ

地元住民をはじめ多岐にわたる分野のアーティストや建築家、建築や芸術を学ぶ学生などが、景観形成やダムエリアの活用などについて様々な考察を重ねる機会として活用されました。住民とアーティストによる多様性に富んだ提案が行われるなど、数多くのワークショップが開催されました。



写真：伊達浩史氏

地灸

「大地にお灸をすえる」というアイデアから生まれたインスタレーション(場所や空間全体を作品として体験させる芸術)です。休耕地の草を集めて巨大なお灸を作り、空き地に並べた数十個のお灸に一齐に点火。地球に灸をすえることで、新しいことを生み出す様々な痛みを映し出すと共に治療し、再生する大地へのメッセージが込められていました。



写真：吉松秀樹氏

01 共通親柱デザイン

ハイヅカ湖地域に架かる3大橋(知和大橋・灰塚大橋・羽地大橋)以外の全ての橋に、実際に使用できるこしかけ(ベンチ)が設置されています。本来、橋の機能とは、2点間を繋ぐことで、途絶えていた空間や生活行為に連続性を持たせるものですが、本作品ではその連続性をより発展的に解釈して、親柱を限定された空間の始点または終点と見なさずに、周辺の風景や生活行為を相互に繋ぎ合う「周囲との接触体」としてつくられました。

誰もが触れることのできる身近な家具のような橋として存在するとともに、高欄端部が外側に膨らんだ形態は、前後の道や空間を繋ぐ「手」や「指」がモチーフとなっています。吉舎町の加村橋、三良坂町の田戸橋・反谷橋・湯谷大橋・井原橋、総領町の木屋猿候橋の親柱に設置されています。



02 灰塚大橋

高欄の外側にはハイヅカ湖地域に生息する(していた)91種の動植物をモチーフにしたガラスプレートが並びます。生き物達と人々の記憶を刻んだプレートが表現しているのは「ハイヅカニイキルモノ」。博物館の機能も併せ持つ橋です。



191枚のガラス板にサンドエッチングで動植物のシルエットを彫り込んでいます。デザインは美術家の藤浩志が担当しました。

03 羽地大橋

ハイヅカ湖地域で最も長大な橋です。橋の傾斜と塔の高低差を生かし、かつては大切な生活用水だった小谷の沢水を灌漑用水などに再利用しています。沢水は高欄内のパイプを通り塔に集められて歩道手すりのパイプをUターンし、最後は湖に戻ります。自然環境と景観、地域の暮らしの相互調和を表現した作品です。



04 展望スペース 「うさぎの耳」ほか

沢水は羽地大橋を循環する過程で様々な音を奏でながら、「うさぎの耳」「たぬきの耳」「かわうその耳」と名づけられた3つの公園を通過します。それぞれの公園に設置されたベンチで、自然の音や気配に耳をすませてみてください。

05 灰塚ダム記念公園



直上流のダム堤体と一体感を持たせ、美しい緑に包まれた親水式の自然公園です。散策路や芝生広場、せせらぎ水路や休憩所などがあり、地元の人をはじめハイヅカ湖地域へ訪れる観光客の憩いの場として活用されています。ダム水没エリアに生育していた稀少植物のキツツジ、ヤマトレンギョウ、コバノチョウセンエノキが園内に移植され、順調に育っています。

06 灰塚ダム・堤体

治水と上水道供給を目的とした重力式コンクリートダムで、周りの修景との調和を考慮した下から見上げて見栄えのする景観デザインを行いました。堤体は7色にライトアップされる時もあり、幻想的な景観を楽しむことができます。ダム建設が自然環境や景観へ与える影響を極力少なくする工法や設計を取り入れて作られたダムです。



07 ガードレール (灰塚ダム防護柵)

支柱の部分は薄い深緑、柵の部分は黄土がかった茶色。道路脇に整備されているガードレールの色は、住民による投票や一般の方々のインターネット投票で選ばれました。ポイントは「冬でもなじむ、夏でもなじむツートンカラー」形はほとんどガードパイプ型です。総領町田総の里グラウンド前の林道、三良坂町旧顕徳寺前の県道、吉舎町安田パークゴルフ場付近の林道などで見ることができます。



08 なかつくに公園 (アースワーク公園)

田総川のダム湖上流端に位置する約2.5km²にも及ぶ広大な公園で、上流側には親水エリア・下流側にはボートや魚釣りが楽しめるエリアがあります。明治時代、治水のため直線にされた田総川の流れを本来の湾曲した伏流として復活させ、ホタルの成育に適した自然に優しい環境を目標としたい、という地元の意見を取り入れて各所に小川を設けた、野鳥などあらゆる生物の豊かな棲息環境でもあります。園内の地形は緩やかな高低差を持ち、それぞれの傾斜方向が異なる丘を重ね合わせて構成されており、園内には20種のモミジや16種のドングリ、15種の果樹、菜種やハーブが植えられています。



09 無縁墓地

ハイヅカ湖域内に散在していた無縁仏を慰霊するため、共同墓地内に設けられています。宗教色を出さずに自然に捧げるような空間を、と望む地元の要望を取り入れて制作された慰霊空間です。敷地全体に建てられた2mのステンレスポール1,500本は無縁仏を暗示しており、奥には神木とされるタラヨウの木を移植してその両脇に若木を従える構成となっていますが、タラヨウの大木は灰塚エリアのこれまでの記憶を、幼木はこれからの新しい歴史を象徴しています。ポールの間を縫って進むと、内部に祭礼の空間があります。足元には灰塚ダム流域から採取した大小の自然石が敷き詰められ、再奥部にはU字溝を利用した骨壺埋葬スペースが隠されています。



10 知和大橋・高欄

暖色を用いて柔らかい印象を与える全長138mの橋です。欄干には大人一人がすっぽり入れるほどの大きさの「まど」が設置されており、家のドアのようなフレームです。流線型の高欄先端には54個の照明が施され、ホテルの里を舞う光をイメージした灯りが黄～緑～橙に変化しながら点される様は、まるでホテルの飛ぶ軌跡を描くようにほんやりと闇の中で浮かび上がります。



11 倉谷トンネル

吉舎と総領を結ぶ全長650m、両側の抗口の装飾には緑色のスナゴケが多用され、メンテナンスフリーで緑化できるトンネルです。コケで直壁を緑化するのは全国でも初の試みで、コケが生える特殊なマットと色の付いたタイルを壁面に配置し、コケによる模様を浮かび上がらせています。抗口にデザインされた水平線は五線譜をイメージしたもので、命ある自然の移り変わりを音楽になぞらえています。



12 ひまわり舞台・展望台

上下川の護岸を舞台に見立てた親水公園で、対岸の芝生から臨むと屋外劇場としても機能します。護岸工事で掘り起こした土を盛り上げて作った山が舞台となり、その周りを囲むようにウッドチップなどの自然素材を使ったS字状の遊歩道が連なっています。半円形で回廊状のあずまやには大きな葉っぱをかたどった屋根がかけられており、自然環境と人々の暮らしを結びつける意図を持ってつくられました。



13 木屋癒香の杜

木屋川沿いに広がるハーブの実験農園で、春には60本のしだれ桜が咲きます。展望台や広場に繋がる遊歩道などがあり、昔の畔や田畑の形を生かしたデザインが施されました。現在は様々な交流の場として活用されています。



ハイヅカ湖畔の森



14 コテージハウス レストハウス

湖畔を見下ろすコテージは、山肌を切り崩さないよう湖面側にせり出した形で佇んでいます。屋根の上には湖面や星空が見えるベンチがあります。また、ガラス張りの大きな窓から自然光がふんだんに入るレストハウスは外観・内部とも周囲の環境にしっかりと溶け込む素材や色が使われた施設。今は「ハイヅカ湖畔の森レストラン」として営業しています。



15 陶芸学習舎

陶芸学習舎は、林間学習舎のアネックスとして斜面地に浮かぶようにおかれた陶芸家の教室兼アトリエです。木製の門型フレームを並べた市松状の直方体を、デッキとスロープで既存施設に繋げた構成となっています。湖畔の森に後から加わったため、外壁は近接する建物に合わせた色彩や素材を組み合わせ、統一感を出しています。

16 D-POINTプレート (展望台内)

湖面を一望できる展望台の中央には「D-POINT」と彫られた丸いプレートがあります。これはダム建設中の定点観測ポイントを示すもので、地域の未来を展望する意味も込められています。他にも8箇所埋め込まれています。



17 アースワークセンター



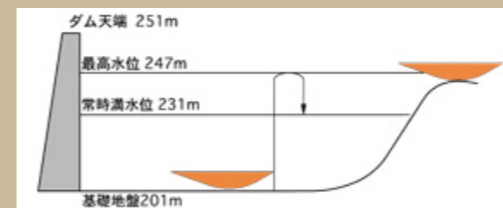
アースワークプロジェクトの会議室兼資料庫として建てられ、現在は灰塚ダム関係の資料などが収蔵されています。半透明の波板を透かして見える内部の構造が、外観のデザインの一部に出現する構造となっています。これは、相互に干渉し合い、共有し合おうとアースワークプロジェクトが試みた「建設の透明化」を体現した作品といえるでしょう。

COLUMN

コラム

「船をつくる話」プロジェクト

「森の引越し」をテーマに、アートユニット「PHスタジオ」が1994年から取り組んできたプロジェクト。ダム建設で伐採される木を利用して地元住民の協力を得ながら全長60mの筏状の船をつくり、試験湛水時の水位上昇・低下を利用して山の上に乗せるという壮大なものでした。本田孝義監督によるドキュメンタリー映画「船、山にのぼる」も制作されており、2008年春に一般公開されました。映画では、ダムに沈む予定だった樹齢400年を超えるといわれる老木の大ムクノキ（通称「えみき爺さん」）を慕う住民や賛同者達が移植を計画し、自らの手で丘の上へ移転させる様子なども紹介されています。



自然を守るアースワーク関連プロジェクト

ダム建設による水没予定地には、絶滅危惧種や希少種を含む数多くの貴重な植物が生育していました。アースワークは、自然と調和した環境づくりが基本です。多くの地元有志の人々が自然を守り、環境を復元しようと地域の自然環境に配慮した周回道路計画提案や、様々な植物保全活動などを行いました。あれから10年、ハイヅカ湖地域は今も多くの貴重な植物が生育する、豊かな自然に包まれています。

モミジ山・サクラ山

灰塚大橋左岸側の山のモミジや田戸花の木線沿いの山々にあるサクラは、地域の人々が下草刈りを行い自ら植えたもの。10年後、20年後の景観を考えて、サクラ1,000本、ヤマモミジ3,000本が植栽されました。現在、春と秋には美しい彩りを楽しむことができます。

大谷湿性植物園

大谷地区の貴重植物は大部分が水没を免れたため、移植せずに自生地で保全を続けました。「花の咲く抽水植物群落地」約7,600㎡、「花の咲く湿地植物群落地」約8,800㎡が整備され、約10,000株のアヤメ・ハスなどの湿性植物やカキツバタ・ハナショウブのほか、梅・柿などの果樹が近隣住民の方々によって育てられています。大谷川沿い一帯を溪流として甦らせる試みは今も続いています。

ソバ畑

焼き畑を活用したソバの植生と育成を行い、持続可能な管理手法を検討しました。多くの人々がソバ畑に集まり、子供たちが種を蒔いて大人たちがながらして収穫し、ソバ打ちを体験するなど様々なイベントやワークショップをとおして、今後の取り組みや方向性を考えました。



春植物の移植

水没予定地に自生するセツブンソウやカタクリ、キバナアマナ、イチリンソウ、ニリンソウなどを掘り上げ、宗像神社裏やハイヅカ湖畔の森付近へ移植しました。また、将来的に植物の管理を行う人材を育成するため「春植物育成教室」や「春植物保全管理教室」も開催されました。現在、総領町では毎年3月上旬に「セツブンソウ祭」を、ハイヅカ湖畔の森近くでは毎年4月に「カタクリ祭り」が行われています。

参考：春植物の代表種であるセツブンソウはハイヅカ湖地域周辺の生育地が日本の西限にあたる地域とされていて、個体数が少ないだけでなく分布上でも大変貴重な天然記念物です。

苗木の育成

将来、ダム周辺を緑化するための苗に利用できるよう、コバナチョウセンエノキやヤマトレンギョウ（絶滅危惧種）・キツツジ（希少種）などの貴重種の挿し木を行ったり種子を集めて育成しました。また、シカラシ林の保全などについても検討を重ねました。

アースワークプロジェクト活動のあゆみ

●印が実施年

	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
作家提案ワークショップ	●	●	●						
			場所を読み解く	●	●				
					滞在制作 レジデンス	●	●		
リサーチ、ティーチ・イン サマーキャンプ	●	●	●	●	●	●			
						アート・ステュディウム	●	●	
		大地の痛みをとりのぞく 地灸	●	●	●	●			
		アースワークスクール	●	●	●	●	●	●	●
				街中を美術館に 作品ホームステイ	●	●	●		
主な取り組みや出来事	灰塚アースワークプロジェクト実行委員会発足		灰塚アースワークプロジェクト事業計画書策定 灰塚アースワークプロジェクト構想イメージ案発行	●周辺整備検討業務 総領・三良坂・吉舎各地区 周辺整備計画提言、木屋 地区周辺整備計画、無縁 墓地デザイン設計管理 ●「橋の勉強会」計2回 ●アースワーク河川公園 落成 ●ドキュメント2000プロ ジェクト助成、スクールの 活動をまとめた小冊子	●周辺整備検討業務 アースワーク公園整備計 画検討、三良坂地区周辺 検討業務調整、知和大橋 高欄デザイン、ひまわり護 岸整備実施図面作成 ●広島県「中山間地域活 性化ソフト事業」補助 景観ガイドライン作成(灰 塚ダムCI計画策定)、周辺 環境景観計画(羽地大橋 及び周辺検討・灰塚大橋 及び周辺検討・知和地区 周辺検討)、情報システム 整備、環境美術館設置(小 さな美術館設置) ●企業メセナ協議会98年 度第1回助成活動認定 ●平成10年度芸術文化 振興基金「先駆的・実験的 芸術創造活動助成」決定 ●黒目スタジオオープン ●ひまわりプロジェクト ●三良坂町無縁墓地完成 ●NPO関連研究 ★PH スタジオ 「船をつくる話」	●周辺整備検討業務 ほたるの里整備計画検 討、仁賀地区周辺整備計 画、加村橋等親柱デザイ ン、ひまわり舞台実施設計 施工管理 ●広島県「中山間地域活 性化ソフト事業」補助 のぞみが丘モニュメント制 作、ひまわり舞台四阿デザ イン設計監理、情報提供 システム整備、環境美術館 設置(小さな美術館) ●ガードレール・ガードパ イプの色を決めるイベント 開催、色の決定 ●灰塚ダムインフォメー ションボード設置 ●アースワーク宣言開催 ●レジデンス事業文化庁 支援 ★PH スタジオ 「船をつくる話」	●周辺整備検討業務 稲草水路デザイン監理 倉谷トンネル坑口修景デ ザイン提案、上谷川右岸 整備計画業務、知和大橋 デザイン監理、灰塚大橋 実施デザイン提案 ●ひまわり舞台落成 ●知和大橋完成 ●ドキュメント2000プロ ジェクト助成、作品ホーム ステイ ●レジデンス事業文化庁 支援 ●サマーキャンプ、アート ステュディウムに継承、改 称(共催事業)	●周辺整備検討業務 羽地大橋実施デザイン検 討、上谷川右岸展望台実 施デザイン監理、灰塚大 橋高欄実施デザイン提案 ●倉谷トンネル完成 ●灰塚ダムマーク他検討 ●パンフレット制作 ●アートステュディウム (共催事業)	●周辺整備検討業務 羽地地区周辺環境整備検 討業務、灰塚ダムエリア マーク検討業務 ●小さな美術館補修 ●灰塚ダムマーク他検討 ●エリアツアーの開催 ★PH スタジオ 「船をつくる話」

MAP

全体マップ



ハイツカエリアへの主なアクセスゲート

- 【車】**
 - 中国自動車道庄原 IC から国道 432 号経由約 20 分、総領着
 - 中国自動車道三次 IC から国道 184 号経由約 30 分、三良坂着
 - 山陽自動車道尾道 IC から国道 184 号経由約 60 分、吉舎着
- 【鉄道】**
 - 広島駅から JR 芸備線 急行で約 70 分、普通で約 100 分、三次駅着
 - 三次駅から JR 芸備線 普通で約 30 分、備後庄原駅着
 - 福山駅から JR 福塩線 府中で乗換え約 70 分、上下駅着
- 【高速バス】**
 - 東京（東京駅八重洲口）から約 10 時間、三次バスセンター着
 - 広島バスセンターから約 80 分、三次バスセンター着
 - 広島バスセンターから約 100 分、庄原バスセンター着
- 【飛行機】**
 - 広島空港から福山行リムジンバスで高坂 BS 下車、甲奴行ピースライナーに乗換え計約 90 分、上下駅着

観光情報などのお問合せ先

- 【三次市三良坂支所】
三次市三良坂町三良坂2100 TEL0824-44-4511
- 【三次市吉舎支所】
三次市吉舎町吉舎368 TEL0824-43-3112
- 【庄原市総領支所】
庄原市総領町下領家278 TEL0824-88-3060

灰塚ダム・知和ウェットランドに関するお問合せ先

【国土交通省灰塚ダム管理支所】
三次市三良坂町仁賀1575 TEL0824-44-4360